

| | | |
|---------------------------------------|---|--|
| 項目 | 臨床研究 | |
| 試料・情報の利 用目的 及び 利用方法 | 研究課題名 | 思春期女性への HPV ワクチン公費助成開始後における子宮頸癌の HPV16/18 陽性割合の推移に関する疫学研究(第 II 期; 2019 年 4 月-2026 年 12 月) |
| | 研究目的 | 子宮頸癌は近年では 20 代後半から 30 代に急増し、若い女性の発症率が増加傾向にあります。思春期女性を対象にヒトパピローマウイルス(HPV) ワクチンの公費助成事業が、ワクチン接種緊急促進事業(平成 22, 23 年度)として開始されましたが、現在厚生労働省が積極的接種勧奨を差し控えています。ワクチンは本来治療が生殖機能に影響を及ぼしやすい若年者(16-40 歳)に発生する子宮頸癌及び前癌病変である子宮上皮内腫瘍、上皮内腺癌の減少が特に期待されていますが、その恩恵を受けられないでいる方がたくさんいらっしゃいます。そこで子宮頸癌、子宮上皮内腫瘍、上皮内腺癌の罹患数と HPV16 型/18 型の陽性率の推移を調査することにより、HPV ワクチンの有効性を早期に確認することを本研究の目的としています。また、残念ながら亡くなられた方の診療情報を使用させていただくことで、HPV ワクチンを受けた世代と受けなかった世代とで子宮頸癌の死亡率の変化を検討・比較します。 |
| | 研究対象者 | 2009 年 1 月 1 日以降に当院で子宮頸癌と診断され、16-39 歳で治療を開始したが亡くなられた患者さん |
| | 研究期間 | 西暦 2019 年 9 月 11 日 ~ 西暦 2026 年 12 月 31 日 |
| 利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します) | <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録 | |
| 試料・情報の 管理について の責任者 | 当センター 研究責任者 | 加藤久盛 |
| 試料・ 情報を 利用す る者の 範囲 | 当センターでの実施診 療科/部局等 | 婦人科 |

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者</p> | <p>< 研究代表者 > 東北大学産科学婦人科学分野 医師・教授 八重樫 伸生</p> <p>< 副研究代表者 > 昭和大学医学部産婦人科学講座 医師・教授 松本 光司</p> <p>< 実施施設・研究責任者 > 北海道大学 大学院医学研究院 産婦人科 医師・教授 渡利 英道 国立がん研究センター 中央病院婦人腫瘍科 医師・病棟外来医長 石川 光也 がん研有明病院 婦人科 医師・部長 竹島 信宏 筑波大学 医学医療系 産婦人科 医師・教授 佐藤 豊実 埼玉県立がんセンター 産婦人科 医師・副院長 横田 治重 埼玉医科大学 医学部 産婦人科 医師・教授 藤原 恵一 琉球大学 医学部 産婦人科 医師・教授 青木 陽一 兵庫県立がんセンター 婦人科 医師・地域医療連携部長兼婦人科部長 山口 聡 神奈川県立がんセンター 婦人科 医師・部長 加藤 久盛 四国がんセンター 婦人科 医師・手術部長 竹原 和宏 九州がんセンター 婦人科 婦人科長 岡留 雅夫 九州大学 医学研究院 医師・准教授 矢幡 秀昭 近畿大学 医学部 産婦人科 医師・教授 松村 謙臣 大阪国際がんセンター 婦人科 医師・主任部長 上浦 祥司 久留米大学 産婦人科 医師・教授 牛嶋 公生 京都大学 医学部 産婦人科 医師・教授 万代 昌紀 岡山大学 医学部 産婦人科 医師・准教授 中村 圭一郎 熊本大学 医学部 産婦人科 医師・教授 片淵 秀隆 自治医科大学 医学部 産婦人科 医師・教授 藤原 寛行</p> |
|------------------------------------|--|